



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレター No. 164

2023年12月



神を見出す人生

この世界は病んでいます。とめどもない戦争や迫害、飢餓や貧困、大雨や洪水、地震や津波、ありとあらゆる災害に取り囲まれています。人災や天災に見舞われると私たちはどうして自分ばかりとの思いになってきます。2011年3月東日本大震災の被災地の教会としてたくさんの国内外のクリスチャンボランティアを引き受け支援活動をさせていただきました。当時の被災地はクリスチャンを知らない人々が多く住んでいる漁村や農村でした。ある人たちは無私の愛を持って仕えるクリスチャンの姿に打たれ、彼らの信仰に興味を持ち聖書を学び信仰告白に導かれました。その結果、まったくキリスト教に無関係な地域にいくつかの教会が出来ました。

イエス様はある人々がユダヤの地方総督ピラトがガリラヤ人を殺害したことを告げた時、彼らに言われました。「そのガリラヤ人たちは、そのような災難にあったのだから、ほかのすべてのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったと思いますか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いますか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」(ルカ 13:1~5)

この社会は人災、天災の原因を追求して二度と同じ災害が起こらないように防止策のマニュアルを作ってひと安心するのが常です。イエス様は災害を見たり聞いたりしたらこの世界を治めている創造主へ

塩釜聖書バプテスト教会開拓担当牧師 大友幸一の悔い改めが大切なことを教えました。私たちは誰でも必ず死を迎えます。死の原因は人間は創造主に背を向けて生きている罪びとだからです。そのことを直視するために災害による試練が私たちの身近なところに起こるのです。

使徒パウロは当時の文化都市ギリシャのアテネの学者たちに向かって創造主なる神について語りました。

神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。それは、神を求めさせるためです。もし人が手探りで求めることがあれば、神を見出すこともあるでしょう。確かに、神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです。(使徒 17:26~28)

様々な時代や国境線はよい環境をもたらす場合とそうでない場合があります。また試練の原因にもなります。ところがそれらには大きな意味があります。そこで生きている人々が全世界を治めている創造主を求めるためであり、創造主を知って救いをいただくためです。

世界中で、国外でそして日本で身近な地域で家庭の中で思いがけない想定外のことが起こります。ある人たちは嘆きます。どうしてこんな事件が起こったのか。どうしてこんな病気になってしまったのか。こんな家庭にどうして生まれてしまったのか。どうしてこんな時代なのか。どうしてこんな職場で働くことになったのか。それらは神を求めさせるためです。神は私たちから決して遠くにはおられません。

遠く近くの様々な試練は私たちが神を見出し神と共に生きる希望あふれた人生の扉が開くためです。

すでに神を見出した人々には神の憐みと恵みを思い巡らす時です。

「サイレント・リトリート」という取り組み

「あなたはどこにいるのか」と主は人に呼びかけられました(創 3:9)。主は、私たち一人ひとりに対して、御声をかけてくださっています。「あなたはどこにいるのか」と。では、私たちは、一体どこにいるのでしょうか。

私が自分が燃え尽きる寸前であることに気づいたのは、2011年の東日本大震災後のことでした。ある時、デボーション・ノートを読み返していると、殆ど毎日、「今日は疲れた」と書いていたのです。震災直後から数カ月間は大変でした。津波や地震の被害は甚大でしたし、原発事故による放射能汚染は、心身を酷く消耗させました。しかし、多くの労苦の末に、生活は段々と落ち着いて来て、平穏な生活が戻ってきたと思うようになっていました。ところが、外側の復興の陰で、私の内側は枯渇していたのです。

これは大きな危機だと思いました。私は牧師の務めをいただいています、私が燃え尽きたなら、一体誰が教会の方々のお世話をするのでしょうか。私自身が、癒され、回復させられることが急務だと感じました。

そこで、イエズス会の黙想センター「せせらぎ」(東京都練馬区)が主催している集いに参加してみることになりました。最初は2泊3日の黙想から始め、その後、3泊4日の黙想、更に8泊9日の黙想に参加しました。そこでの体験は、とても新鮮でした。また、心の深いところが元気を取り戻すように感じました。

そして、黙想を通しての主との交わりは、牧師や信徒の方々を大いに助けることになるのではないかと強く思うようになりました。私は、以前から、太田和功一先生を同伴者とする「サイレント・リトリート」と呼ぶ集会に参加してきました。「同伴」とは、主との交わりを助ける働きのことです。「サイレント・リトリート」は、カトリックの黙想会と多くの共通点を持っています。この「サイレント・リトリート」を継続的に開催することで、教会の皆さ

名取ニューライフキリスト教会 牧師 大沼孝んに、主との深い交わりを体験する場を提供できるのではないかと考えています。現在は、太田和先生が第一線を退かれたため、私が同伴者として奉仕する機会が年4回あります。いずれも2泊3日の集いで、軽井沢や那須にある黙想のための修道院の施設で開催しています。また、太田和先生が設立したCLSKという団体も主に東京で多くの黙想の集いを行っています。黙想について関心がありましたら、CLSKのホームページをご覧ください。私宛にメールしてください(earc2008@yahoo.co.jp)。皆さん、お一人おひとりが、主の御声を聞く幸いを体験して欲しいと私は願っています。

献金感謝 (2023. 7. 1-2023. 10. 31)

皆様の献金を心から感謝します。

常盤一崇、圓林栄喜・さゆり、大頭眞一
小島健二、石川信隆、康田洋子
吉田 靖、石井克直、廣田具之、中野久永

献金振込先は次のどちらでも結構です。

- ① 郵便振替口座：00130-3-87577 (コルネリオ会)
- ② 銀行振込口座：三菱UFJ銀行 和光支店 店番505 口座番号 0385701 ジェーエムシーエフ ナガハマタカユキ
- ③ ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)店 当座 0087577 コルネリオ会

コルネリオ会に寄せて

コルネリオ会の皆様、はじめまして。宮城県の塩釜聖書バプテスト教会開拓担当牧師の栗田義裕と申します。石巻、仙台での約 40 年の牧会生活を経て、現在は無牧教会の支援や後継者育成の働きに専念しています。この度、原稿の依頼がありましたので、拙いながら信仰と戦争の問題について普段考えていることをまとめてみました。折しも、イスラエルとハマスの戦いが厳しい局面を迎え、ウクライナ戦争も出口の見えないまま、クリスチャンとしても無関心ではられない状況に置かれています。

私と自衛隊との接点は、石巻で伝道していた時でした。航空自衛隊松島基地所属のクリスチャン青年が礼拝に出席してくれていたのが、松島基地に訪問したこともありましたが、きびきびとした対応が印象的でした。また私の父は戦時中、海軍の造船将校として広島にいたことがあり、家の本棚には造船関係の本と共に雑誌「丸」も並んでいたのが、子どもながらに興味をもって読んだことを覚えています。その後、信仰に導かれて教会生活を送る中でずっと感じてきたことは、どうも日本のクリスチャー教会の中には意識的にせよ、無意識的にせよ、自衛隊に対する否定的な感情があるのではないかということです。（もちろん教派、教会によって違うとは思いますが）

仙台で牧会していた時、かつて自衛隊に勤務していたクリスチャン青年と一緒に松島基地の航空祭に出かけた際に、彼がふと「自分とこんな風に付き合ってくれる牧師は珍しいです。…」と淋しそうに話っていたことを思い出します。自衛隊を巡る考え方に相違があるのは当然としても、日夜、防衛のために尽力してくださっているクリスチャン隊員の方に肩身の狭い思いをさせてしまうとすれば、それは残念なことです。

日本は四方を海に囲まれているため、国境というものを肌で感じる機会が乏しいように思います。私は 20 代の頃、韓国の板門店を訪れる機会がありました。ツアーに参加する際には、万一のことがあっても主催者は一切責任を負わないという誓約書にサインをし、38 度線に近づくとパスポートをガイドに預けて見学となります。周囲を米軍駐留部隊が厳重

塩釜聖書バプテスト教会開拓担当牧師 栗田義裕に警護する中、緊張して板門店の会談場に入りました。緑色のクロスが敷かれたテーブルの真中に伸びているマイクのコードが国境線であるとの説明に、普段は殆ど意識することのない国境の存在とその厳しさを肌で感じることができました。また、こちらの動きを逐一監視している北朝鮮兵の鋭い視線を意識して息の詰まるような思いをしたことを覚えています。私はすでに信仰を持っていましたけれども、若い時のこの体験が今の自分の考え方の根底にはあるように思います。

教会の歴史を遡ってみると、初代教会の時代からクリスチャンは戦争や兵役のことでは色々と葛藤を感じていたようですが、時代が下ってキリスト教が国教化されると教会内にも軍人が増えて行き、教父たちによって「正義の戦争」が議論されるようになります。しかし、帝国がいわゆる「ローマの平和」を享受していた時代でも、その背後には史上最強と謳われたローマ軍の存在があったことは歴史的事実です。また、使徒パウロもエルサレムで危うく群衆のリンチに遭いそうになった時、ローマ軍の千人隊長に助けられ、さらにカイサリアに護送されるに際してはローマ軍の手厚い護衛がありましたし、2 年間にわたるローマでの監禁生活における伝道も、ローマ兵に守られてのものでした。（使徒 21-23、28 章）使徒パウロの伝道は、ローマ軍のサポートなしにはあり得なかったというのは言い過ぎかもしれませんが、「ローマの平和」が「世界最強の軍勢力」によって維持されていたという事実をどのように評価、判断するかは今後の大きな課題ではないでしょうか。（岩波新書「軍と兵士のローマ帝国」）

最後に一言、12 年前の東日本大震災の折には自衛隊の皆さんに搜索活動から簡易風呂の設営に至るまでの献身的なご支援をいただきました。被災地の教会の牧師として、改めて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。日夜、大きな責任を担ってくださっている自衛官の皆様の上に、神様の祝福があるよう心よりお祈りしています。

東北勤務で感じたこと

コルネリオ会副会長 圓林栄喜

1 はじめに

自衛官は全国を異動し、行くところ行くところ、様々な教会で礼拝を守ることになります。教派も違えば、自衛隊についても考えは様々ですが、幸いどの教会も我々家族を快く受け入れてくださいました。本当に感謝しております。

2 東北での勤務の印象

東北（宮城）での勤務は初めてでしたが、我慢強く真面目な隊員が多いという印象を持ちました。東日本大震災での自衛隊の活動については今でもお礼を言うてくださる方々も多くおられ、そのことにこちらが励まされました。

3 支倉常長（はせくらつねなが）

そんな東北勤務で特に印象にのこったクリスチャンが支倉常長です。1613年に伊達政宗が太平洋を越えてメキシコ経由で大西洋を渡りスペイン、ローマまで使節団を派遣し1620年に帰国しました。

彼はその使節団の責任を負い、同行した宣教師の影響もあり移動中に受洗しましたが、華々しい成果もなく失意のうちに帰国しました。日本はキリスト教禁教政策の中であったため交渉が難航したようです。

大航海当時とは言え旅慣れない一行が、7年もかけ、インド洋回りの航路ではなく、太平洋周りでよく生きて帰ってきたと驚くばかりですが、帰国後2年後には病没。お家も息子の時代に家来のキリスト礼拝により取り潰しの憂き目にあいます。

キリシタン迫害の時代、クリスチャンになることが何を意味するかは分かっていた中で常長の行動は何か私の心に訴えかけてくるものがありました。

グローバル化が進む中、価値観も多様化し、信仰を持ち続けることが困難な時代が再び到来するかもしれません。常長や迫害にあった当時のクリスチャンのごとく、我々の命は主のみ手の中にあり、主の与えられた使命を黙々と果たし、その一生を終える者でありたいと思います。

4 おわりに

今回のニュースレターは、私が東北勤務間にお世話になった3人の先生に執筆をお願いしました。

少子高齢化と過疎化が進み、多くの教会が無牧や

兼牧の状況になりつつあります。私の通っていた教会もそのような状況に置かれていました。コロナ禍ではありましたが、互いに祈りあうこと、共に集まり礼拝を守ること、主を証すること、クリスチャンホーム建設、信仰継承の大切さを改めて感じました。

AMCF 世界大会のご案内

来年10月に開催されるAMCF世界大会について案内します。前回の世界大会は、2014年に南アフリカで開催されましたので、10年ぶりの開催となります。なかなか開催されない貴重な機会ですので皆さま奮ってご参加ください。

参加を希望される方（検討中の方も結構です。）は、中野会長（jmcfusa@gmail.com）までお知らせください。よろしくお願いいたします。

期日：2024年10月16日～19日

場所：ブラジルサンパウロ州

アグアス・デ・インドイア

マジェスティックホテル

主催者：UMCEB、南米副会長、ACCTS、AMCF

参加者：約2,000名

参加費：600米ドル

月例会動画の案内

コルネリオ会月例会における牧師先生らのメッセージをコルネリオ会（JMCF）ホームページにアップしております。毎回様々な視点から信仰の糧となるテーマでメッセージをいただいております。見逃された方、興味のある方は是非ご覧ください。

<http://jmcf.s302.xrea.com/index.html>

2023年8月 「創造主の神イエス」

～ヨハネの福音書1章1節から12節～

MEAJ 日本自衛隊宣教会牧師・コルネリオ会教職顧問

金 学根

2023年10月 「御言葉は私の道の光」

～コリント第Ⅱの手紙3章18節から4章6節～

武庫川キリスト教会協力牧師・コルネリオ会教職顧問

井草 普一